

北海道教育委員会教育長 様

北海道浜頓別高等学校長 北 村 京 一

次のとおり令和2年度の学校評価について報告します。

## 1 本年度の重点目標

<p>心身ともに健康で、目標達成に向かって主体的・協働的に判断・行動できる生徒を育む。</p> <p>(1) 学習に取り組む意欲・態度の涵養を図るとともに、社会貢献に資する有益な人材を育む。</p> <p>(2) 自他を尊重・敬愛する視点を持ち、基本的な生活習慣の確率を図り、自己管理能力を育む。</p> <p>(3) 進路目標を定め、情報収集・活用を通じ、自己実現に向け、粘り強く取り組む姿勢を育む。</p>
---

## 2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

## 【教育活動に関する評価】

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	<p>○習熟度別授業とICT機器の活用 英語、数学で習熟度別展開授業を実施し基礎学力の向上に成果を上げている。 授業にICT機器を活用し、生徒の興味関心や理解を促し、学力向上に貢献した。</p> <p>○授業見学、授業評価、校内研修の一体化による授業改善 公開授業週間等で教科横断的に授業見学を行い、授業評価とあわせて授業改善につなげる取り組みを行った。 生徒が主体的に学習できる授業について、教員どうしが学びあえる機会を設けることができた。</p> <p>○生徒の実情に応じた取り組みの必要性 授業、HR等で家庭学習を促す働きかけを行ってきたものの、実効性に欠けていた。学校全体でしくみ作りができていなかった。</p>	<p>学力向上に向けて、家庭学習習慣定着へ向けには、数年来の課題であり、高校独自で達成できるものではない。幼少期のコミュニケーション等、特に小中学校の生活習慣が大きく影響するので、連携を強化することで、改善に向けて進んで欲しい。コロナ禍の影響もあり、これまで以上に生徒に寄り添う姿勢が大切である。</p>
改善方策	<p>○次年度は教員配置の関係から、習熟度別展開授業を実施することが困難なため、授業、放課後学習、個別指導を組み合わせ多様な学力の生徒に対応する。 確実な学力向上に資するICT機器の活用について、十分考慮したうえで今後も積極的な活用をしたい。</p> <p>○授業見学、授業評価をふまえた授業改善を次年度以降も継続して校内研修のテーマとして扱い、PDCAサイクルによる授業改善が実効性のあるものとさせる。</p> <p>○各教科・科目の授業やHR単位だけでなく、学校全体（全学年を対象）で家庭学習を促す機会（学習日・週間の設定など）としくみを構築する。各種資格・検定等の取得を推奨し、家庭学習に取り組む必要性を生み出す。生徒の学力に応じた課題設定など、すべての生徒が家庭学習の必要性と有益性を見いだせる取り組みを実施する。</p>	
生徒指導	<p>○感染症拡大防止のためスマホ教室は実施することができなかった。スクールカウンセラー講話を2度実施し、北海道文化財団の表現力アドバイザー事業を実施できた。今年度、いじめ関連で大きな問題は起きなかった。</p> <p>○生徒との面談を各学年で定期的実施し、生徒情報共有した。生徒指導事故や不登校はゼロだった。</p> <p>○今年度は行事をあまり実施することはできなかったが、各中学校での生徒会による学校説明会や、70周年記念の座談会、中高連携学習会などに参加することで、生徒は自己有用感を育んだ。部活動は少人数で大変だが頑張っている。</p>	<p>生徒の日常やストレスなどを適切に把握し、未然防止に向けた取り組みを実践して欲しい。現在の取り組みを継続しつつ、教育相談体制を充実させ、引き続き多様な生徒への対応をお願いしたい。表現力アドバイザー事業など、あらゆる角度からの指導を実践していることは評価できる。</p>
改善方策	<p>○スマホ・ケータイ教室などは、オンラインを活用した実施も考えていく。また、講話などだけでなく、普段の授業などから、情報リテラシーや人権尊重意識を醸成できるようにしていく。</p> <p>○引き続き、定期的な面談などを実施することで生徒理解を深め、職員会議などで情報を全体で共有していく。</p> <p>○学校の新しい生活様式に対応した行事のあり方を探るとともに、通常であっても生徒数と教員数が減少することを想定し、行事や活動を持続可能な形にしていく。部活動では地域の力も借りて存続させる。</p>	
進路指導	<p>○進路決定の時期に臨時休校があったが、登校日に繰り返し面談を実施しミスマッチのない進路指導へ繋げることができた。また、面接指導の充実を目的とし外部講師による校内研修を実施した。</p> <p>○スタディサプリや吉田学園の公務員講習動画の活用など外部機関の活用による講習の整備を図ることができた。</p> <p>○キャリア教育の充実を図るため、近隣企業や上級学校との協力によって説明会や相談会の実施を進めることができた。</p>	<p>生徒の求めている物を広くキャッチし、適切に提供していくことが大切である。職場体験学習等のキャリア教育に力を入れ、地元企業の説明会や進学層段階などの多くの機会をもつことで、生徒の意識向上、地域活性化に役立っている。オンライン等、多様化が進んでいるので、遅れることなく対応して欲しい。</p>
改善方策	<p>○今年度の進路指導での入試改革初年度の対応を活かすとともに制度変更を実施した学校の情報の収集と共有を行う。また、生徒の進路決定につながる情報発信を行う。</p> <p>○今年度実施の外部機関の活用を活かし講習の制度設計を行う。また、キャリア行事の充実のため、オンラインの活用も含め関係機関や町内企業と連携し、行事運営の改善を図る。</p>	
健康・安全指導	<p>○感染症対策について継続的に指導を行い感染流行を防ぐことだけでなく予防行動の定着や健康管理意識の向上させることができた。基本的な生活習慣の確立やストレス対処等の健康課題を抱えている生徒が多いため指導の充実が必要である。</p> <p>○全校生徒を対象として健康相談を実施し、個に応じた教育相談体制の充実をはかることができた。積極的に教育相談を行い、指導・支援につなげることができた。</p> <p>○定期的な安全点検を行い、危険箇所点検・修繕に努めることができた。</p>	<p>校内での感染症対策が万全でも、学校外からの持ち込みも考えられるので、引き続き感染症対策の徹底をお願いしたい。また、教育相談体制の充実が、生徒の安定した学校生活に大きく影響するので、引き続き、丁寧な指導を行ってほしい。養護教諭の役割は非常に重要であり、先生方との連携を図り、変化を見逃さないようしっかりと生徒に寄り添い、観察・助言をお願いしたい。</p>
改善方策	<p>○健康課題に焦点を当て、関係教員・関係機関等と連携した計画的な保健指導の徹底、掲示・配布物等を活用した積極的な情報発信を行う。</p> <p>○関係機関等を含めた教育相談体制の構築を図り、迅速かつ丁寧な組織的対応につなげる。</p> <p>○計画的に点検を行い、修繕が必要な箇所に関しては迅速に対応し、生徒の安全管理に努める。</p>	

【学校運営に関する評価】

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
信頼される学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○管理職による中学校生徒、保護者へのプレゼンテーションを行い、積極的な情報発信を行った。</li> <li>○ホームページのタイムリーな更新につとめ、情報発信を行った。また、町の広報担当者や、地域報道関係者と連携を密に図り、学校の細かな活動についても、報道することによる、教育活動の周知に務めた。</li> <li>○教育長、中学校長、高校校長による三者懇談を定期的に行い、連携事業のスピーディーな実践に努め、効果をあげた。</li> <li>○自然観察学習や、農業後継者育成事業、地元企業による校内説明会等を実施し、地域と密着した教育活動を実践し、効果をあげている。</li> </ul>	<p>広報活動やPR活動等、積極的に取り組んでいただいております。さらに、広めていけるようお願いしたい。一般町民、地域住民が高校と関わる機会が少ないので、これまで同様、地域との連携強化について、多くのイベントへの参加や、ボランティア活動への取り組みなど積極的に取り組んで欲しい。</p>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全教職員が学校経営シラバスの重点とスクールミッションを意識し、目標を明確に、共有し実践することが重要である。</li> <li>○本校の様子を広く、知らせるために、引き続き広く積極的な情報公開を行う。</li> <li>○三者懇談会の内容を受けた中高連携事業の実践について、計画的に実践できるよう体制を整える。</li> <li>○総合探究学習への位置づけ等、地域と連携した教育活動の組織体制を整える。</li> </ul>	
組織運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた、新しい生活様式を進めるにあたり、これまでの教育活動における前年度踏襲を改め、働き方改革を踏まえた、行事の見直し、実践方法の再検討を行った。地区別懇談会を個別面談週間に、1日体験を生徒会執行部の訪問形式にする等、実効性と教育効果の向上を意識した改革に取り組んだ。保護者や関係から高い評価をいただいた。</li> </ul>	<p>一問口体制等の情勢に応じて、これまでの「やり方」を変えていくことは評価すべきところである。教員の負担軽減を図りながら、取り組んでいただきたい。学校説明会等を生徒の訪問形式にしたのは、素晴らしい実践だと思います。削減するところと、新たな実践とのバランス良くすすめて欲しい。</p>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一問口としての新たな組織体制を構築するとともに、年間計画の見直しと、業務の精選による実効性を高めた、教育活動推進に努める。</li> <li>○地域連携事業の見直しを図り、人数減により、出来ることと出来ないことを整理し、一つ一つの関わりを大切にしたいものにする。</li> </ul>	
教職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○管理職による授業参観を積極的に行い、教員の授業改善に向けた意識の向上を図った。ICTを効果的に活用することで、生徒の興味関心を高め、深い学びに向けた授業実践に取り組んでいる。</li> <li>○各種通知や、事故情報等を定期的に職員に提供し、注意喚起を促すとともに、事故の問題として捉え、危機管理意識の向上に務めた。</li> <li>○他校への視察、外部講師の招聘等による教員研修の場を多く持ち、資質能力の向上に努めた。</li> </ul>	<p>若い先生方が多い中、積極的に研修・実践を積み重ね、指導力を向上させてもらいたい。ICT技術を活用した授業等のスキルは向上について、小中高連携した研修会を実施したことは、素晴らしい取り組みである。引き続き、小中学校との連携を深め、研修等を積極的に行い、資質向上に努めていただきたい。</p>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教員個々の実践を、研修会等と連動させ、学校全体として授業力向上につながる体制を構築する。年間の通じた研修テーマを設定し、実践、評価、改善のサイクルを構築する。</li> <li>○日常の呼びかけとともに、職員会議や、研修の場をとおして、危機管理意識を向上させる。事例研究等を積極的に取り入れ実践力向上に努めたい。</li> <li>○研修結果報告や、自らの実践報告など、互いに高め合う雰囲気作りのもと、研修活動の充実を図る。</li> <li>○「指導力向上」を意識させ、日々の実践を評価しあえる雰囲気作りと、ミドルリーダーが育つ環境づくりを行う。</li> </ul>	
公表方法	学校ホームページ・学校だよりにおいて公表	

3 添付資料

令和2年度学校評価（保護者）アンケート集計結果、令和2年度学校関係者評価書